

すみよいまち、すんでみたくなるまちづくり

順調に進む「サン地開発」



兵海戸団地 造成工事着工

市の面積のおよそ八十五パーセントが山地で占められている都留市。その山地の有効利用を図るとともに恵まれた自然を守りながら調和のとれた開発を進めようと、「サン地開発構想」を主要施策として推進してきました。

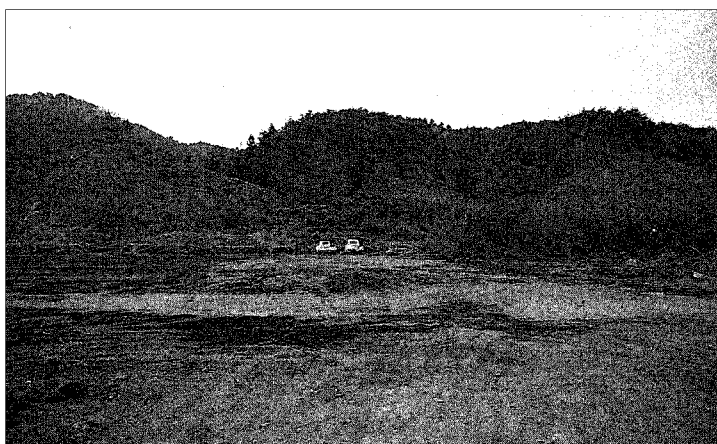
山地の「山」、太陽(SUN)の「サン」、産業の「産」、この三つの「サン」から命名された「サン地開発構想」。水と緑に囲まれた、素晴らしい自然環境に満ちあふれた都留市を、より活力あるまちへと推進している事業です。

定住人口の減少化に歯止めをかけ、地域の活性化を目指して、その第一ステップとして昭和六十二年には、サントウン玉川をはじめ、サントウン平栗、サントウン九鬼が完成しました。すでに、新しいまち並みが形成され、大きな成果が現れてきました。

そして、今年度から平成六年度完成を目指して、宝地区大幡兵海

戸地内に優良住宅地の造成が、地域の皆さま方のご理解をいただき進めることになりました。開発面積は、四・七ヘクタール、一〇三区画を分譲し、〇・六ヘクタールの用地を確保して公営住宅三棟を年次計画で建設して行く予定です。一月二十八日には、都倉市長をはじめ関係者の皆さまのご出席のもと、安全祈願祭を執り行いました。

また、桂町地内には今年五月に完成予定の、住宅用地八区画(〇・二八ヘクタール)の造成にも着手しました。



このほか、井倉地内朝日川与繩橋下流右岸一帯の荒地一・八ヘクタールに一般用地三十二区画、公共用地〇・七ヘクタールの住宅用地造成も計画中です。一月には進入路のための橋梁工事に着手し、平成五年度完成を目指しています。

一方、国家的プロジェクトとして進められている「山梨リニア実験線」のトンネル採掘工事にもなう残土の有効利用を図るため、大平地内の約八ヘクタールを農地造成を目的とした土地改良事業を実施しています。これに引き続き、札金地内の約八ヘクタールについても区画整備事業としての整備を計画中です。